

社会福祉法人 東京有隣会

有隣

YURIN

2024.8

(令和6年)

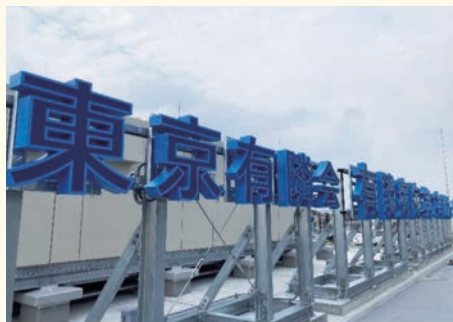


新棟・間もなく完成！ 2024/9/30

屋上全景



屋上施設名サイン



南面施工中



(2024.6 撮影)

東京有隣会

○ 永年勤続表彰

5月16日(木)に有隣病院勤務の7名の方が理事長から勤続10年表彰を受けられました。感謝状と記念品をお贈りしました。

おめでとうございます！



○ 9月は防災月間です

当法人、有隣病院、有隣ホーム、第2有隣ホーム、有隣ケアセンターでは利用者さんが安全・安心に過ごされるよう毎月「消防設備機器の確認」や「地震訓練（初動訓練）」等を行っています。9月には「法人内合同自衛消防訓練」を行う予定です。

有隣ホーム

梅雨入り？



いつの間にか梅雨入りし、したと思えば毎日暑い日が続く異常な天気ですが、中庭には頭と同じくらいの大輪の紫陽花が咲きました。皆様に紫陽花をバックに記念撮影。梅雨に合わせた室内装飾を皆様で作成しました。





第2有隣ホーム

暑い暑い夏が
やってきました

第2有隣ホームでは今年も熱中症対策として『お休み処』を開放しております。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。以前からお知らせしておりますように新棟の建設も着々と進み完成が近づいて参りました。新棟での運営に備えスマートフォンを使用した見守り機器の

導入やユニットケアに関する研修など、新しい取組みを開始しております。施設行事では母の日、父の日、ホーム喫茶を実施し、ご好評いただきました。七月末には現施設では最後のなる夏祭りを開催いたしました。皆様の健康と幸せを願いながら、夏の暑さを乗り越え、一緒に素敵な季節を過ごして頂ける事を心より願っております。



有隣ケアセンター

暑さに負けない
体力作りを目指しています



連日の猛暑の中、いかがお過ごしでしょうか。ケアセンターでは五月に季節の行事「端午の節句」「菖蒲湯」と「野点」、六月には「運動会」、七月に「七夕」の行事を開催しました。運動会では日頃のリハビリや体操の成果を存分に発揮して競技を楽しんでいただきました。七夕では、小規模の人形劇で七夕の起こりを演じ、願いが叶うよう祈りを込めて、利用者の皆様と短冊を飾りました。有隣ケアセンターでは、暑さに負けぬ体力を維持していただけるよう、適度な運動プログラムとレクリエーションを用意してお待ちしております。



有隣病院

船橋あおばまつりに参加しました

六月二日(日)に船橋あおばまつりに参加しました。

船橋地区会館での血圧測定、血管年齢測定では、現実を知りたくないと思慮する方もおられたので、当院では気軽に測定できるような工夫を次回から考えていきたいと思えます。また、子供たちと健康クイズを行い内容が難しいものもありましたが、興味を持ち何度も繰り返し挑戦してくれました。



夜間地震・火災想定避難訓練をしました

七月十八日(木)

C棟3階(回復期リハビリテーション病棟)で夜間地震による出火を想定した消火訓練、車いすなどの避難・誘導訓練を行いました。



健康コラム



本当は怖い熱中症

今年は何年より三週ほど遅い梅雨入りでしたが、早々と梅雨が明け、真夏の猛暑が続いています。地球温暖化の影響で、近年の夏は昼夜とも亜熱帯の気候のような暑さが続きますので、熱中症に気をつけなければならぬ季節がやってきました。

熱中症とは、高温多湿な環境に長時間いることで、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態をいいます。必ずしも屋外だけでなく、屋内で何もしない時でも発症し、場合によっては死亡することもある病態です。

熱中症は、最近では重症度に応じてI度からIII度に分類されるようになりました。I度の熱中症では、めまい、立ちくらみ、筋肉の痙攣など、意識障害を伴わない軽度の症状のみで、通常は入院治療が不要で現場での応急処置で対応可能です。II度の熱中症は意識障害、肝・腎機能障害、血液凝固障害を少なくとも一つ認めるもので、体温上昇や横紋筋融解症を伴うこともあり、入院して集中治療の必要な重症熱中症です。I度とII度の間で、頭痛、吐き気、嘔吐、虚脱感など、医療機関での対処が必要な中等症がII度とされています。

熱中症を疑う場合には、まず涼しいところに移し、脱衣のうえ体内の熱を外に出すために送風や水かけなどで冷却します。意識障害がなく、また吐き気や嘔吐がなければ、冷

たい水や経口補水液、スポーツ飲料などを補給しましょう。見るからに重症感がある場合はためらわず、すぐ救急車を呼びましょう。意識障害はないものの、自力で水分が取れない場合や、応急処置で症状が改善しない場合は医療機関を受診してください。特に高齢者で心臓や肺、腎臓に持病がある方では、暑熱暴露により基礎疾患が悪化して、死亡に至る場合が少なくありません。

熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめな水分補給が必須です。特に高齢者では、真夏の日中はできるだけ外出を避け、家の中ではブラインドやカーテンで直射日光を遮り、扇風機やエアコンで室温と湿度を調整することが必要です。暑さに対する感受性は個人差があり、エアコンを嫌う方もいますが、消防庁のデータでは、熱中症で救急搬送される人の半数以上が六十五歳以上の高齢者です。ので、居住空間の気温が30℃を超える場合にはエアコンを使用しましょう。

熱中症について正しい知識を身につけ、体調の変化に気をつけるとともに、周囲にも気を配り、熱中症による健康被害を防ぎましょう。

有隣病院 診療部長 吉村邦彦

重症度	分類	症状	処置
↓	I度 (軽症)	めまい 立ちくらみ 足がつる 手足がしびれる 汗が止まらない	現場で応急処置。 ・涼しい場所で安静 ・身体を冷やす ・水分・塩分補給
	II度 (中等症)	頭痛 吐き気・おう吐 身体がだるい 意識がなんとなくおかしい	速やかに医療機関を受診
	III度 (重症)	意識が無い けいれん まっすぐに歩けない 体が熱い	ただちに119番通報 入院

日本救急医学会熱中症分類 2015 をもとに作成

